

健康のひろば

—23—

地元の医師がアドバイス

—水道の水の流れなどで突然激しい尿意を感じ、我慢できずに漏らすなどトイレに頻繁に通つようになりました。「過活動ぼうこう」の可能性を指摘されましたが、どんな治療法があるのですか。

(名寄・商業、六十五歳)

—☆—

過活動膀胱は、二〇〇二年の国際泌尿学会で定義が変わってから広く使用され

るようになった病名で、まだ聞き慣れない方も多いかと思われれます。英語の頭文字を略してOABと表現されます。尿意切迫感(急に尿がしたくなり、我慢することが難しい)が週に一回以上あり、他に頻尿(尿をする回数が多い)や切迫性尿失禁(急に尿がしたくなり、我慢できずに漏らしてしま

を調べる検査を行っていたのですが、OAB症状質問表を手エックしてもらったと、患者さんの自覚症状のみで診断が出来るようになりました。現在、泌尿器科以外の診療科でも診断・治療が行われています。

「トイレのことを考えたとき」、「帰宅して玄関に鍵を差し込んで水の流れを聞いたとき」、「冷たい水で手を洗ったとき」など患者さんによって様々です。尿意切迫感のスイッチの仕組みについては、まだ完全には解明されていません。

OABの治療は、飲み薬が中心で、膀胱の過剰な収縮を抑える抗コリン薬がまず使用されます。口が乾いたり、便秘したりといった膀胱以外での副作用があり、最近では、従来の薬と比べて副作用が少ない新薬が開発されています。ただし膀胱の収縮を抑えることは尿の勢いを弱くしてしまう場合があり、残尿を確認したほうが安全です。

男性の場合は前立腺肥大症が原因になっている場合も多く、 α 遮断薬という尿道を広げて尿の勢いを良くする薬でOABが改善する場合があります。まずそこから開始して、尿意切迫感でお困りの方には、医療機関で一度相談されることをおすすめします。



(名寄市立総合病院 泌尿器科・山下孝典)

頻尿や尿失禁の悩み？

を疑います。

従来、泌尿器科で

「トイレに行くこと」を決意したとき、